



報道解禁：平成29年12月26日（火）15：00以降

平成29年12月26日
独立行政法人日本学術振興会

第14回（平成29年度）日本学術振興会賞の受賞者決定 （25名の若手研究者が受賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 安西 祐一郎）は、本会に設置されている日本学術振興会賞審査会（委員長 野依 良治：科学技術振興機構研究開発戦略センター長）の選考に基づき、日本の学術研究の将来のリーダーと期待される日本学術振興会賞受賞者25名を決定しましたのでお知らせいたします。

＜日本学術振興会賞ホームページ： <http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>＞

1 日本学術振興会賞について

本賞は、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を見出し、早い段階から顕彰することで、その研究意欲を高め、研究の発展を支援することにより、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させることを目的としています。

選考は、各分野を代表する我が国のトップレベルの学術研究者により構成される審査会で厳正な審査が行われ、受賞者を決定しました。

2 受賞者について

今回は、人文学、社会科学及び自然科学にわたるあらゆる分野を対象としている本賞ならではの研究者25名に授与されます。

人文学、社会科学系では、イタリアの都市の文書館に所蔵されていた14世紀の裁判記録など市民の実践を記録した一次史料を発掘して分析し、中世後期における国家形成過程の解明に大きく貢献した研究者等が選考されました。

自然科学系では、細胞膜上の1分子の長期間追跡技術の確立を通して、神経伝達効率を決定する仕組みを発見し、記憶・学習・脳神経疾患の分野に貢献した研究者等が選考されました。

なお、日本学士院において、これら25名の日本学術振興会賞受賞者の中から、日本学士院学術奨励賞の受賞者が選ばれることとされています。

3 授賞式について

平成30年2月7日（水）に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞の授賞式が同時に行われる予定です。

（お問い合わせ）

独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部長 長澤 公洋、研究者養成課長 爲房 正
電話：03-3263-4934

日本学術振興会賞の概要

—優れた若手研究者の顕彰・支援—

1. 事業の趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要がある。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を設けた。

2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学の全分野とする。

3. 推薦条件

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成29年4月1日現在以下の条件を満たす者とする。

1) 45歳未満であること

2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む。）

3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお、日本国籍を有する者の場合はこの条件を問わない。）

4. 推薦権者

1) 我が国の大学等研究機関の長（機関長推薦）

2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（個人推薦）

5. 選考方法

日本学術振興会に設置する審査会において選考する。

なお、審査会は受賞者の選考に当って、学術システム研究センターに意見を求めることができる。

6. 授賞等

授賞数は毎年度25件程度とし、受賞者には、副賞として研究奨励金110万円を贈呈する。

日本学術振興会賞受賞者の中から特に優れた者に、日本学士院学術奨励賞が授与される。

また、授賞式は日本学士院を会場として行う。

7. 第14回（平成29年度）日本学術振興会賞推薦状況

平成29年度(第14回)			前回からの候補者※1	合計※2
機関推薦	個人推薦	計		
274人(237人)	16人(11人)	289人(245人)	134人(135人)	423人(380人)

※1 本賞の推薦書は2年間有効であり、前年度の被推薦者から受賞者及び当該年度の4月1日時点で45歳以上の者を除いた者を審査対象者とする。

※2 重複推薦は1名で計上。

※3 ()内は、前年度の人数

8. 第14回（平成29年度）日本学術振興会賞日程

推薦依頼	平成29年2月10日
推薦書受付	平成29年4月7日～12日
予備審査 (学術システム研究センター)	平成29年5月上旬～10月上旬
審査会	平成29年11月1日
授賞式	平成30年2月7日

9. 日本学術振興会賞賞牌

このメダルは、形態の基本となる円、三角形、正方形を重ね合わせ「創造」を表現し、その中心に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配することで、世界トップレベルの研究を発信するという趣旨のデザインをしました。

(デザイン:東京芸術大学名誉教授 飯野 一朗)



日本学術振興会賞審査会委員名簿

氏 名 （所属機関・職）

委員長 野依 良治（科学技術振興機構研究開発戦略センター長）
伊賀 健一（東京工業大学名誉教授）
榊 裕之（豊田工業大学学長）
永井 良三（自治医科大学学長）
長田 重一（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授）
西尾 章治郎（大阪大学総長）
西澤 直子（石川県立大学生物資源工学研究所特任教授）
福山 秀敏（東京理科大学学長特別補佐）
室伏 きみ子（お茶の水女子大学学長）
毛里 和子（早稲田大学栄誉フェロー・名誉教授）
森 重文（京都大学高等研究院院長・特別教授）
森棟 公夫（椋山女学園理事長）
山内 昌之（東京大学名誉教授）

（敬称略）

平成29年10月現在

久原 篤 (クハラ アツシ)

(KUHARA Atsushi)



生 年 1976 年 出 身 地 愛知県

現 職 甲南大学理工学部 教授
(Professor, Faculty of Science and Engineering, Konan University)

専門分野 分子神経生物学

略 歴 1999 年 名古屋大学理学部卒
2001 年 名古屋大学大学院理学研究科修士課程修了
2002 年 日本学術振興会特別研究員-DC (2004 年から PD)
2004 年 名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了
2004 年 博士(理学)の学位取得(名古屋大学)
2005 年 名古屋大学大学院理学研究科助手
2007 年 名古屋大学大学院理学研究科助教
2009 年 名古屋大学大学院理学研究科講師
2011 年 甲南大学理工学部講師
2013 年 甲南大学理工学部准教授
2017 年 甲南大学理工学部教授(現在に至る)

授 賞 理 由

「線虫を用いた温度応答を司る分子細胞機構の解明」

(Molecular and Cellular Mechanisms Underlying Temperature Response in Nematoda)

動物は温度に対して様々な生体応答を示すが、温度の感知から個体の行動に至るまでの間には、神経回路やその他の器官を介した情報処理や記憶学習の形成などが関わっている。久原篤氏は線虫を用いたモデル系で、温度に対する組織、細胞レベルでの制御に関する数々の創造性、独創性に富む業績を挙げてきた。久原氏は 3 量体 G タンパク質を介した温度受容の経路を初めて明らかにした。また、温度と餌の関連づけ学習がわずか 3 つのニューロンで制御される最小の学習に関する神経回路を明らかにした。さらに、温度が低下すると頭部の感覚ニューロンからのインスリンシグナルが腸で受容され、頭部の感覚ニューロンへのフィードバック制御によって全身の低温耐性が獲得されること、このフィードバックに腸から放出されるステロイドホルモンを受容する精子が介在することを示した。いずれの業績も温度生物学において世界をリードするものである。